取扱い注意

日本ダムコーヒー協会の紹介

令和4年6月16日（運用開始）

※日本ダムコーヒー協会「会　長」

※日本ダム協会ダムマイスター（専門家）

※ＮＰＯ法人地域リサイクル推進機構「専務理事」

※NPO法人木曽三川環境保全機構「理　事」

町田 輝次（まちだ てるつぐ）

日本ダムコーヒー協会の目的・会長挨拶

１．日本ダムコーヒー協会の目的

日本ダムコーヒー協会（以下、「本会」という。）は、全国に点在するダム水源地の大切さを広く国民に知ってもらう新たなグローバルツールとして、ダム毎の水源水を淹れた手軽で身近なコーヒーをモチーフにした「〇〇ダムコーヒー」と称し、グローバルツールの普及、及びダムの日制定（6月16日）目指して更なるダムへの健全な支援の輪を広げる為のボランティア活動を目的としています。

２．日本ダムコーヒー協会会長の挨拶

この度、日本ダムコーヒー協会会長に就任しました町田輝次と言います。

これまで、当時の建設省・水資源開発公団等でダムや湖沼の建設・管理等を主に歩んで来ましたが、その体験をダムへの恩返しも込めて活かすべく、日本ダムコーヒー協会をここに設立致しました。

今回は、これまでにない新たな水源地域活性化策として、全国のダムは「いつでも～　どこでも～あなたと繋がっている」を合言葉にした〇〇ダムコーヒー認定書を授与する制度を我が国で初めて生み出しました。

これまでは、ダムに興味を持たれなかった皆さんでも、身近で手軽なコーヒーを縁に全国の多彩なダムとふれあってわが身のダムとして愛していただければ幸いです。

ダムと皆さんとの懸け橋に、日本ダムコーヒー協会が寄り添えればとの熱き想いで活動を成り行きまかせで展開していく所存です。

なにせ、手弁当で手探りの活動ですが、皆さんと共に夢に向かって羽ばたいて活きたいと願っていますので、ご理解・ご協力・ご支援の程宜しくお願い致します

日本ダムコーヒー協会の紹介

4. 日本ダムコーヒー協会（全国〇〇ダムコーヒー愛好会事務局兼務）の紹介

1）設立日：令和3年11月16日

2）役　員：会　　長　町 田　輝 次（技術士・日本ダム協会ダムマイスター「専門家」）
副会長　橋 本　岩 夫（RCCM）
理　　事　石 田　勝 紀（一級造園施工管理技士）
井 尾　賢 治（ダム建設功労者表彰受賞）
萩 森　哲 哉
町 田　康 輝（AFP）、加 藤　景 子他

3）協力団体等：橋本技術（株）、NPO法人地域リサイクル推進機構、NPO法人木曽三川環境保全機構、ウインコンサルティング（株）　他

4）事務局：滋賀県長浜市高月町東柳野425　橋本技術株式会社内（〒529-0263）

5）アクセス：JR北陸本線高月駅下車徒歩約30分、JH北陸自動車道小谷インターチェンジ下車約10分。

6）連絡先：TEL0749-85-4851　FAX0749-85-5205

7）ホームページ：http://hashimoto-gijyutu.com/　（橋本技術(株)で検索）

8）会長メールアドレス：win-machida@t.zaq.jp（携帯：090-2064-4289）

9）取引銀行：りそな銀行三国支店（店番123）日本ダムコーヒー協会　普通口座（0277111）

10）「〇〇ダムコーヒー」特許庁商標登録
・登録日：令和3年11月26日・登録番号第6477111号　・登録者名:町田輝次
・有効期限10年間

11）ダムコーヒー認定制度運用開始：令和4年6月16日（木）
（日本最古の狭山池が誕生した616年にちなんで）

○○ダムコーヒー認定制度の誕生

5. 目　的（全国のダムは、いつでも～どこでも～あなたと繋がっている！）

　ダムや流域水源水を大切な国民的レガシー（次世代に引継ぐ貴重な国民的遺産）と位置付け、これまでのダムカード（現地で貰う）・ダムカレー（現地で食べる）に続く新たな時代に向けて、新型コロナウイルス感染症対策等でダム現場に行かれなくとも、全国のダムと『どこでも～いつでも～どなたでも～気軽に繋がる』グローバル活性化のツールを生み出しました。

　また、ダムカードやダムカレーが無いダムも全国には月刊誌「ダム日本」の取材で数多くある事を知り、これらのダム（全国の多目的ダム570基＋利水ダム900基＝約1,470基）にも向けて多様な地域活性化に辿り着けるツール選択にも配慮しました。

　やっと、たどり着いた先が、国民１人が毎日約１杯は飲んでいる手軽で身近なコーヒー（日常生活で３～４杯飲む人が多いとの事で、私も２杯飲んでいます。）が、在宅勤務や生活習慣病予防への健康志向もあって、ブームになっている事をヒントに、「ダム流域の水源水」を使用して淹れたダムコーヒー（いつでも～どこでも～どなたでも【グローバルに】）を味わいながらのひとときを、ダムの建設・管理＆水源水＆水源地域＆水源地域住民等に想いやりを抱いて頂ければとのヒラメキです。

兵庫県川西市の一庫ダム（モデル）

一庫ダム流域内の能勢電車妙見の水（無料）

大阪市内の友人がたしなむ一庫ダムコーヒー

○○ダムコーヒー認定制度の概要

6. ○○ダムコーヒー認定制度の概要

○○ダムコーヒー認定証（ミシュランの☆獲得のイメージ）を発行する運営組織は、日本ダムコーヒー協会を令和3年11月16日に設立し、令和4年2月28日開催の水源地活性化講習会発表を本格的なスタートとして、令和4年6月16日から運用開始しています。

この認定証は、全国に点在するダム毎にダムコーヒーへ関わる夫々の立場に応じて、以下に示す5部門を考えています。

※流域水流水とは（ダム毎に、自らが水源水を見つけ出す事が「グローバル活性化ツール」）

河川法第44条が定義するダム（堤高15m以上）及び堰において、ダム流域内での水道水・地下水・沢水・雨水・ペットボトル販売水等を使用した「コーヒーを日常たしなむ」飲食店や、キャンプ場、公共＆民間事業所、個人&家族等が対象。（例えば、一庫ダム水源水を使用して沖縄でコーヒーをたしなめば遠くでも「一庫ダムコーヒー」に該当します。）

①公共事業者部門（ダム湖やダムが見える公共事業所等もOK）

公共機関のダム管理所＆ダム建設所＆地元自治体ダム担当部署等。

②民間事業者部門（ダム湖やダムが見える民間事業所等もOK）

飲食店（ダムの駅）＆キャンプ場＆天然水メーカー＆コーヒー豆＆コーヒードリップバック＆コーヒーカップ製造・販売者＆ダム建設業者＆建設コンサルタント業者等。

③家族部門（ダムやダム湖を見ながら「通る人・働く人・住む人の家族等もＯＫ）

日常、自宅やダムコーヒー認定証を受けた飲食店でコーヒーをたしなむ家族。

④個人部門（ダムやダム湖を見ながら「通る人・働く人・住む人」の個人等もＯＫ）

日常、自宅やダムコーヒー認定証を受けた飲食店コーヒーをたしなむ個人。

⑤聖地部門

全国４７都道府県で、各最初にダムコーヒー認定証を授与された公共事業者部門

※制度の類似例としては、日本ロマンチスト協会の「ロマンスマーク認定制度（物・人）」があります

○○ダムコーヒー認定制度の仕組み

7. モデルダムでの構築実証への取り組み

モデルダムとして、私が住む大阪市内から最も近くてかつ私がダム建設に携わりダムや地域状況を把握している一庫ダム管理所のご協力を頂き、「一庫ダムコーヒー認定制度」の仕組み作りについて、令和3年12月～令和4年2月にかけて行ないました。

「一庫ダムコーヒー」の認定を受けるには

一庫大路次川

1

一庫ダム蕎麦の提供料理店
（ダム直下でダムが見える）
（ダム日本2019.10月号紹介済み）

・ダム施設周辺（飲食店等）
ダムを眺めながら「一庫ダムコーヒー」をたしなむ

2

＜流域沢水・水道水を使用して＞

・流域内にて（個人・家族・飲食店・事業者等）
ダム日本で学びながら「一庫ダムコーヒー」をたしなむ

3

＜流域地下水「妙見の水（無料）」を使用し＞

・流域外にて（個人・家族・カフェ・事業者等）
ダムに想いをはせながら「一庫ダムコーヒー」をたしなむ

※　妙見の水
妙見の森ふれあい広場」にて
無料でお持ち帰り出来ます
（ペットボトル容器は持参下さい）

4

＜流域ペットボトル販売水を使用して＞

・全国どこでも（個人・家族・カフェ・事業者等）
「一庫ダムコーヒー」をたしなむ

一庫ダムコーヒー愛好会

商標登録証
(CERTIFICATE OF TRADEMARK REGISTRATION)

登録第６４７７１１１号
(REGISTRATION NUMBER)

商標
(THE MARK)

ダムコーヒー

指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分
(LIST OF GOODS AND SERVICES)

第３０類　コーヒー，焙煎したコーヒー豆，即席コーヒー，アイスコーヒー，エスプレッソコーヒー，ミルクコーヒー
その他別紙記載

商標権者
(OWNER OF THE TRADEMARK RIGHT)

町田　輝次

出願番号
(APPLICATION NUMBER)　商願２０２１－００３９７３

出願日
(FILING DATE)　令和　３年　１月１５日 (January 15,2021)

登録日
(REGISTRATION DATE)　令和　３年１１月２６日 (November 26,2021)

この商標は、登録するものと確定し、商標原簿に登録されたことを証する。
(THIS IS TO CERTIFY THAT THE TRADEMARK IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)

令和　３年１１月２６日 (November 26,2021)

特許庁長官
(COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)

森　清

ダムコーヒー商標登録証その１（特許庁）

商標登録証
(CERTIFICATE OF TRADEMARK REGISTRATION)

（続葉　1）

登録第６４７７１１１号(REGISTRATION NUMBER)

商願２０２１－００３９７３(APPLICATION NUMBER)

指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分
(LIST OF GOODS AND SERVICES)

（第３０類）　，コーヒー飲料，代用コーヒー，コーヒー豆

第４３類　　コーヒーを主とする飲食物の提供，飲食物の提供

［以下余白］

ダムコーヒー商標登録その2

○○ダムコーヒー認定証申請

8. ダムコーヒー認定証申請

○○ダムコーヒー（○○部門）認定証（A3サイズ）を受けたい方は、日本ダムコーヒー協会宛に該当部門毎に所定の 認定申請書を郵便等（メール送付は×）で提出し、日本ダムコーヒー協会内に別途設置され、原則月1回の頻度で開催の「認定審査会」で申請 書受付順に公平・公正に審査され、合格者には栄えある○○ダムコーヒー認定証が授与されます。

また、同一者であっても所定の手続きを経れば、ダム毎に◯◯ダムコーヒー認定書の複数授与が受けられますので、ダムカード同様収集マニアが増える事でしょう。

（例えば、一庫ダムコーヒー、浦山ダムコーヒー、君ヶ野ダムコーヒー、小里川ダムコーヒー等）

1）郵送先：事務局

2）認定証費用：実費負担（認定証作成・郵送等4,000円）

3）認定証の有効期限（運転免許証と同じ原則5年更新）

4）申請書（例：個人や家族の場合）

・住所　・電話番号　・Eメールアドレス
・氏名　・生年月日　・職業（記入出来れば）
・○○ダム水源水の具体的な入手方法

～ダム水源水の入手方法を調べる事自体が、水源地への想いを寄せる事となり得ます。～

・○○ダムへの関わり方や想い（見学会・清掃活動等参加）
・誓約書（顔等写真入り写真添付）　・その他

認定者の協力義務

9. 認定者の協力義務

1）認定者は、希望により日本ダムコーヒー協会の会員（会費は無し）になり、自主的な会員相互のネットワーク網を構築し、オンライン等による親睦＆情報交換＆交流等に努める。

2）民間事業者においては、事業所内において〇〇ダムの広報や、日本ダム協会が発刊する月刊誌「ダム日本」等を購読され、来場者に向けた広報活動等の環境整備に努める。

3）公共事業者にあっては、〇〇ダムコーヒー認定制度の紹介、〇〇ダムコーヒー認定者が参加を希望するダム見学会等を通じて、ダム事業の更なる広報活動に努める。

4）個人及び家族にあっては、〇〇ダム調査所、建設所及び、管理所等が開催するダム見学会等の啓発活動への積極的な参加及び、〇〇ダムコーヒー認定制度を口コミ等で自主的にその輪を広げる事に努めると共に、教材としての「ダム日本」等によるダム学習や情報収集、「ダムコーヒー水源地域自治体へのふるさと納税」等に努める。

5）支援及び協力者の募集

日本ダムコーヒー協会の趣旨に賛同される団体及び個人は、協会にその旨申し出て、その内容について双方協議に基づき、協会は必要な支援や協力を受ける事が出来ます。

※団体とは、公共団体、公益法人、NPO、飲食事業者、天然水ペットボトル＆コーヒードリップ＆コーヒーカップ等販売事業者、建設会社、建設コンサルタント会社等を指します。

ダムコーヒー認定証運用にあたっての注意事項

10.「ダムコーヒー」の特許庁商標登録使用注意事項

〇〇ダムコーヒー認定証以外で、団体及び個人での「ダムコーヒー」用語を使用したい時は予め日本ダムコーヒー協会にその旨申し出て、許可を得てから使用出来ます。

これを怠り無断で使用した場合は、法的処置を受ける事となりますので、十分ご注意下さい。

《留意事項》

1） 認定証授与者は、〇〇ダムコーヒー認定制度の趣旨を十分に理解し、健全な社会貢献活動に資する行動に努めるものとします。

2） 認定証を受けた者は、認定制度を実践する中で生じたトラブル（水源水の入手や、飲食店の利用等）や事故（水源水の衛生等）等については、協会はその責任を一切負わないものとします。

3） 認定制度の廃止については、協会が解散された時、又は「ダムコーヒー」の商標登録者から商標登録に関する使用中止の申し入れが出された場合は、認定制度を廃止しますが、制度が廃止されても認定証に明記された期間内は有効とします。

その場合の金銭補償等は、一切ありません。

4） 認定制度の運用開始時期については、令和4年6月16日から運用を開始していますので、事務局ホームページ等で各自その都度ご確認下さい。

ま と め

　これまで受けたダムへの恩返しも込めて、時代に即した新たなグローバル活性化について思案したところ、**「全国のダムは、いつでも～どこでも～あなたと繋がっている！」**をキャッチ フレーズに手軽で身近な**「〇〇ダムコーヒー認定制度」**が創造出来たところで、これから実践しながらより良い「グローバル活性化」に取り組んでまいります。

　日本ダムコーヒー協会は、試行錯誤する中で果敢に挑戦していく覚悟の基、 健全なボランティア活動として自然の成り行きに委ねながら、役員の知力＆気力＆体力が許される限り、賛同頂ける皆さんと共にこの輪を全国に広げ、ゆくゆくは志し高き後継者に引き継いでいければとの想いです。

　いずれ、「〇〇ダム水源水ペットボトル」＋「ドリップパック〇〇ダムコーヒーとのセットで、全国のダムコーヒーのコラボが叶えられれば、まさに本物の「〇〇ダムコーヒー」と言えるのではと想いから、今後目指してみたいです。

追伸

　この２月２３日NHKまちかどスペシャルにて、今「お取り寄せツアーで旅行気分」が好評で、地域の美味しい食べ物を取り寄せ、オンラインで同趣味の仲間と食べながら語り合う事がブームだそうです。
「ダムコーヒー」がとても似ていますので、自信を深めたところです。